

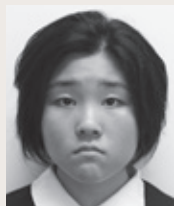


令和8年度 中学生議会

7月31日、主権者教育推進の一環として市議会議場で「令和8年度中学生議会」を開催しました。市内7つの中学校・義務教育学校から2人ずつ、計14人の生徒が参加。市政に対しさまざまな質問を投げかけ、市長、副市長、教育長が答弁しました。質問と答弁の概要を紹介します。

問 教育総務課☎内線3331

休日の学校部活動の地域展開について



さかきばら のん
神原 暖さん（おくの義務教育学校8年）

私が所属する吹奏楽部は今後もこれまでと同様に活動できるのか、活動場所や指導者はどうなるのか、分からないことが多くあります。安心して活動を続けられることが大切です。地域展開の今後の見通しや活動場所や支援はどうなりますか。

答弁▶吹奏楽部は、全中・義務教育学校で活動していること、楽器の運搬が困難であることから、現在同様に、各学校で活動する予定です。指導は指導者バンクの登録者、学校の先生が行います。指導者バンク登録者は豊富な演奏・指導経験があるので専門的なサポートを受けることができます。今後も皆さんが不安を感じないよう適宜情報をお伝えし、安心して活動できる環境づくりに努めます。

若い世代の意見反映について



たなべ みゆ
田邊 心優さん（下根中学校2年）

私たち中高生も市の政策の影響を受けていますが、選挙権がないため自分の意見を投票で示すことができません。若い世代の意見を反映させるためにはどのような工夫をしているのか、また、これらどのような取り組みを考えていますか。

答弁▶市では誰もが直接市政に意見を届けられる窓口として「市長への手紙」という仕組みを設け、メール、電話、専用ポスト、切手不要の郵便など、自分に合った方法で意見を出すことができます。また、議員の発言自体が、何よりの「若い世代の意見反映」の実践であり、「市長への手紙」を知ってもらうきっかけとなりました。今後も、皆さんの新鮮な声をさらに活発に市に届けてくださることを期待します。

外国籍の人とのトラブルを防ぐことについて



みずたけ りょう
水竹 遼さん（牛久第三中学校2年）

市内外国人数は毎年増え続けています。県には母国語での相談支援や、日本語学習支援や交流イベントがありました。そこで、市はどのように外国人と交流し、それぞれの理解を深めることが大切だと考え、またそれらの活動をどのように宣伝していますか。

答弁▶当市で暮らす外国人の方々が、地域住民と円滑にコミュニケーションが取れるよう、日本語教室の開催を支援しています。運転免許取得や就職などのニーズに合わせた学習を進めています。同教室は転入時のチラシ配布、広報紙、ホームページへの掲載でお知らせしています。その他にも「世界家庭料理の会」や「国際理解教育講座」を開催し、文化や考え方の違いについて相互理解を深め合えるよう支援を行っています。

牛久市指定ごみ袋の供給状況について



よこた りの
横田 理乃さん（ひたち野うしく中学校3年）

市でも市民生活への影響を考慮し、指定ごみ袋以外でもごみが出せるようになりました。指定ごみ袋の不足がどの程度あるか把握しているのでしょうか。またどのような状況で終了の判断をするのかお聞かせください。

答弁▶今年度当初に通常の約2倍数の購入依頼が取扱店舗からあり、市の在庫が不足する状況となったため、指定袋以外で収集を行う臨時措置を実施しました。今後、8月31日をもって臨時措置は終了し、それ以降は通常どおり購入できる見通しです。ごみ袋やごみ問題に興味を持つことは、住みやすい環境づくりにもつながり、大変意義深く、議員のさらなる探求が進むことを期待します。

しごとに関する政策について



ひしか みき
樋坂 心咲さん（東洋大学附属牛久中学校3年）

AIの発達によって将来なくなる仕事や変化する仕事があると言われています。市は私たち中学生が将来必要な力を身に付けるためにどのような教育を考えているのか、お聞かせください。

答弁▶市は自分らしく未来を生きたいよう支援し、課題解決に使える知識・技能の習得はもちろんのこと、未知の状況や多様性に対応できる思考力・判断力・表現力、そして学びを人生や社会に生かそうとする力や人間性を大切にしています。生成AI活用については教育効果を最大化する使い分けをし、中学生の思考力、記述力を低下させることなく、学びや、探究学習の実践ができるよう考えています。

空家問題について



なかほら りいさ
中原 里依紗さん（牛久南中学校3年）

市では、空家バンクや相談会などの取り組みを行っているようですが、今後特に力を入れて進めたい政策は何か、また問題解決のために私たち中学生や市民にできること、意識の中で変わってほしいことなどをお聞かせください。

答弁▶市では空家バンク、無料相談会などに取り組み、また転入する子育て世帯が空家バンクを通じて空家を購入・貸借時のリフォーム費用の一部補助をしています。また今年度から先進的な取り組みを行う自治体を国が支援する『既存住宅地再生推進モデル事業』に参画しています。未来を担う皆さんが、空家問題を身近な課題と考えることが安心できる生活環境の実現に向けた第一歩となります。

自転車の規則について



ひぐち あやの
樋口 彩乃さん (牛久第一中学校3年)

自転車交通違反への青切符導入がされました。市の総合計画に「自転車と歩行者が安全に共存できる環境整備」とあります。市には自転車専用通行帯がなく、交通ルールもあまり周知されていません。今後の通行帯整備やルール周知計画などをお聞かせください。

答弁▶現在の道路に自転車専用通行帯を新たに整備する場合は道路幅を広げる必要があり、沿道の住民の生活環境に大きな影響を及ぼすことから実現は難しい状況です。今後、新たな道路を整備する際は配慮していきます。また、現在は法改正や自転車の乗り方などの交通安全教室を開催していますが、引き続き警察等と連携し周知活動をしていきます。

若者の自死増加対策について



かみやま かな
上山 環菜さん (牛久第三中学校2年)

昨年の学生層の自殺者数が過去最多とのニュースを見ました。原因はいじめや家庭環境の悪化などが挙げられます。市は少子高齢化のこの時代に学生層の自殺が増えている問題に対してどのように考え、対策していくかお聞かせください。

答弁▶市では心の不調を抱える方を支援するため「ゲート・キーパー」の普及・養成講座や「こころの健康相談」を実施しています。小中義務教育学校でも命の教育やSOSの出し方の教育に努め、いつでも相談できる体制を整えています。今後もこれらの取り組みを通じて、困難に直面したときに孤立せず適切な支援を求めることのできる環境づくりができるよう関係機関が連携していきます。

若人のSNS利用について



かめい ちはる
亀井 千春さん (おくの義務教育学校8年)

SNSは日常の連絡や情報収集に欠かせないものになっています。私たちがSNSやインターネットと上手に付き合い、相手を思いやる心や情報を見極める力を身に付けるためにどのような教育を行っていきますか。

答弁▶市はこれまで情報モラル教育を中心に相手を思いやる心や適切なコミュニケーション方法、危険から身を守る知識などを学ぶ授業を行ってきました。今後も児童生徒が犯罪やトラブルに巻き込まれないようSNSの危険性を伝え、正しく安全にSNSを利用できる力が身に付くよう支援を継続し、情報を正しく判断するための力を身に付けるため「情報リテラシー」教育を強化していきます。

文化財保護や次世代への継承について



おにさわ ゆうな
鬼澤 優那さん (東洋大学附属牛久中学校3年)

市には国県市の文化財が37件あります。私たち若い世代が市にある文化財の保護や次世代への継承を担ううえで、どのような政策を考えていますか。

答弁▶昨年度は牛久藩主山口家の資料が市の指定文化財となり、一般公開を行ったところ1万人を超える来場者があり、好評を得ました。また市独自の「牛久市認定市民文化遺産」を導入し、地域に根差し市民に親しまれている歴史的、文化的価値のある遺産を幅広く掘り起こし、継承に向けた取り組みを進めています。加えて小・中・義務教育学校で郷土学習を行い、歴史や文化に触れる機会を創出しています。

人口について

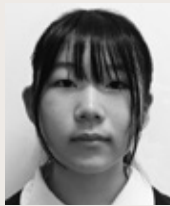


かまだ あやか
鎌田 彩加さん (牛久第一中学校2年)

地方の人口減少や上京による若者の減少を授業で学び、他市の取り組みを調べると移住者や子育て世帯への支援があることを知りました。市は人口が減少しない、若者が市を出ていかないようにどのような取り組みを行っていますか。

答弁▶市は新しいブランドメッセージ「親子特区!!うしく」を掲げ、「親子がともに育ち合えるまち」を目指し、各種取り組みを実施しながら、親子の思い出や心の豊かさを育むまちづくりを進めています。また、東端穴地区で宅地開発を進め、約1,000人の人口増加を見込んでいます。そのほか、学校給食無償化や就学前の子どもの医療費無償化などの支援を実施しています。今後も牛久市を選んでもらえるような取り組みを進めていきます。

地域クラブ活動の展開について



たけざわ かのん
竹澤 花音さん (下根中学校2年)

地域クラブ活動では市内で合同チームを作り、地域住民や保護者から指導者を募集するようですが、指導者の質を確保するためにどのような取り組みをするのか、活動数に対して十分な指導者を確保できているのかお聞かせください。

答弁▶地域クラブでは活動前に指導者説明会や研修を実施し、適切な指導や安全管理が行えるようにし、教育委員会も定期的に活動状況を把握し、安全で適切な運営に努めます。指導員数についても現在必要な人員を確保できています。今後も皆さんが安心して活動できる環境づくりを進め、地域全体で支える持続可能な地域クラブ活動の充実を目指します。

牛久市の道路整備について



あきやま あやか
秋山 絢圭さん (ひたち野うしく中学校3年)

通学路で道路のひび割れや隆起を見かけ、長年改善されていない所もあります。市では改善のためにどのような施策を行っていますか。また今後、通学路や住宅地周辺の道路整備をどのように進めていく予定ですか。

答弁▶市は主要道路の調査を5年に一度実施し、その結果に基づき計画的に修繕を行い、特に駅周辺や病院や避難所に通じる緊急輸送道路などは優先的に進めています。また、市職員が巡回パトロールで状況把握に努めていますが、常時把握は困難であることから、市民の皆さんからの情報提供も重要となりますので、破損・危険箇所を発見された際は市まで連絡をお願いします。

医療の利用や相談の仕組みについて



すけがわ まどか
助川 円さん (牛久南中学校3年)

交通事故にあったとき、救急車を待つ中で「消防署は遠いけどすぐに来るのかな」と思ったことがあります。自宅から病院までの距離が遠い人でも安心して医療を受けたり、相談できたりする仕組みはありますか。

答弁▶119番通報を受ける通信指令センターでは電話口で応急処置を指導できるほか、動画をリアルタイムに見ながら適切な対応を指示する「ライブ119」があり、現場確認や迅速な応急手当に役立ちます。また、県には救急車を呼ぶか迷ったときに電話で相談できる窓口「#7119(おとな)」、「#8000(子ども)」があります。今後もこうした窓口があることの周知に努めていきます。